

巖島の弁天さま

ここは、本佐倉根古谷というところですよ。

この根古谷という変わった地名は、山なお上にお城のある城下を意味しています。そして、この弁天さまの前に広がる田の向こうの山には城山といって、戦国時代には千葉氏の本城がありました。

もともと、ずっと昔（約十五万年前）は、このあたりは広い広い海でした。その名残りが、上岩橋貝層として崖のあちこちにみられます。

やがて、海が後退していくと印旛沼となり、千葉のお殿さまの時代には中池とよばれる大きな池になっていました。この池には美しい蓮の花が咲き、その中に巖島と呼ばれる小さな島があつて弁天さまが祀られていました。

そして、お城に入るには、そちらの山（向根古谷）から城山に長い長い吊り橋がかかっていたともいわれています。しかし、これはさだかではありません。

《千葉氏と本佐倉城》

本佐倉城跡の中心部分は、半島状に三十メートル前後の小山を形成しています。山の東、南、北の三方は低湿地の田に囲まれ、西側は高台に接しています。これらは、内郭とよばれ、城山、城ノ内、倉跡、セッテイ山という五つの

郭に分かれています。そして、外郭部分としてセッテイ山に連なつて荒上という郭があり、さらに中池を挟んで反対側に向根古谷あります。今は主に畑や雑木林を形成しています。

内郭部分は、千葉氏の政務や居住用に使われ、外郭部分は上級家臣団の屋敷や駐屯地に使われていました。

この地からは、四〇五〇〇年前につかわれた陶磁器や鎧や馬具等の金具類の遺物が多数出土しています。

千葉氏の特徴として、一族の男子は「胤」の文字を使い、本家の跡継ぎは代々「千葉介」を継承しました。

家紋は、本家と本家筋が「月星紋」、分家が「九曜紋」を用いました。氏神は妙見神社、宗旨は念仏宗でした。